



★NIE「教育に新聞を」その2



「諦めない強さ」(3組 末永 蓮)

私は、この記事を読んで諦めないことの大切さを改めて感じました。仮に、私が白血病になってしまったら、今していることの全てを諦め、投げ出してしまおうと思います。

しかし、池江璃花子選手は入院中、抗がん剤治療で吐き気が強い時や激しい倦怠感に襲われた時でも、「大丈夫、大丈夫、いつか終わる。」と自分を励まし続けたいです。こんな状況でもポジティブに物事を考えられるのは本当にすごいと思いました。

私も「辛い。嫌だ。」と思うことがあっても常にポジティブに考え、何事も絶対に諦めないような人になりたいです。

「変わらぬ思い」(4組 堀切 勇希)

僕は、昨年、池江選手が同世代の選手とインタビューされているのを見ました。その時の目はとても生き生きとしていて、こんな風になりたいなと思われました。

しかし、その1か月後ぐらいに、白血病になったことをニュースで知りました。僕は、いつも有名なスポーツ選手がケガや病気になると、「なぜ、こんなに頑張っている人がこんな目にあわなければならないのだろう。」と不思議になります。僕だったら、諦めて何もかもダメにしていたと思います。しかし、本当にスゴイ人(池江さん)は、自分で決めた目的に向かって走れるという素晴らしさをもっています。

僕も人間として成長したいなと思いました。

「水泳人生」(5組 屋久 瑚花)

オリンピックを目標に、幼い頃から頑張ってきた選手が、目前にして病で倒れたニュースを見て、何も知らない私まで胸が痛くなった。これまでの苦労・努力・涙、全てが無になるのではないかと。また、病はガンであり命までなくなるのではないかと不安。池江選手の動向は私にとっても心配であった。

しかし、彼女はあきらめることなく病に向き合い、力強く復活した。当初、その体は現役の時とは違って、驚くほど細く小さく見えた。私を含め、多くの人が思ったであろうオリンピック断念を、本人は少しもあきらめていなかった。

池江選手の挑戦、そして負けない強い姿は、今、病で苦しんでいる人だけでなく、多くの人に希望をもって生きることの大切さを教えてくれた。

私もこれから強く生きていこうと思う。

「何事も前向きに」(6組 岩下 花穂)

白血病という苦しい病と約10か月間闘った池江選手。それでも前向きに、そして、7月23日には世界へ向けて希望をもつことの大切さを訴えました。

今の私たちの生活にも「前向き」な気持ちは大事だと思います。このwithコロナの生活はマスク、手洗い、うがい、消毒を徹底しなければなりません。それでも前向きに新しい生活環境に向き合っていくといけないと思います。

池江選手も「第二の水泳人生の始まり」と言っています。私たちも苦しいことや辛いことがあっても、前向きに乗り越えるために、立ち向かわないといけないのではないかと思います。

私も苦しいことがあるとすぐ「無理」など弱音を吐いてしまいましたが、これからは池江選手のように、前向きに困難に立ち向かい、次のステップに上がり、成長していきたいなと思いました。